

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100516		
法人名	社会福祉法人 わかうら会		
事業所名(ユニット名)	わかうら園 第2グループホーム 鶴ユニット		
所在地	和歌山市田野178番地		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	令和4年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和歌浦の高台にあり彼岸の夕日は他県からも大勢の人が観に来ている。マリナーや港祭りの花火も観ることが出来る。散歩に出ると瀬戸内を行き交う船や四国、淡路島が一望できる。特別養護老人ホーム、居宅支援事業所が隣接しており入居者のニーズに対応できる様になっている。第2グループホームは2ユニット18名の方が入居され主治医、訪問看護ステーションと連携し家族様と共に終末期まで援助を行っている。各研修に参加し事業所理念を目標に入居者一人一人が地域の中で安全に安心して暮らしを送れるように支援することを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者一人一人が職員とともに安全、安心して暮らしを送れるように丁寧な関わりを行なっている。人生の最後の時である看取りの対応までできるよう医療面でのサポート体制の充実、24時間の見守りが行われている。スタッフも看取り対応の経験が豊富な人材を配置し、夜間等も充実したケアが受けられる。ご家族からも「良かった」という言葉を頂くこともあったようです。一人一人の利用者の誇らしさを感じ、又職員が介護にたずさわる、誇らしさ感じると管理者の方の言葉が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちで作った理念を、フロアや介護員室の目の付く所に掲げ、朝礼にて毎日唱和し実践につなげている。	ホール、スタッフルーム、フロア3箇所に経営理念を掲げている。また朝礼でも唱和し、職員全員で共有している。理念を見直すこともあった、その理念の思いを繋げていくことを大切にされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により活発な交流は出来ていないが、当法人が地域の避難場所となっている為、訓練等で交流が来ている。	今はコロナのため活発にはできないが、施設が避難場所になっているため、地域の方と避難訓練をしたり、夏祭りに参加をしたりお正月には初詣に出かけたり、地域との交流が盛んに行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症への警戒から外出の機会が無く、地域の方々との関りがほとんどないが、家族様を通じて認知症への理解、支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により2か月毎の開催を、書類送付及びアンケート調査の形態をとっている。アンケートの内容から求められているサービスを見極め、サービスの質の向上に努めている。	コロナ禍により2ヶ月に1回書類送付し、サービス実施状況や活動状況を報告し、利用者の家族、民生委員、包括職員等からアンケートを回収するなどし、サービス向上に活かされるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区支所、地域包括支援センターに運営推進会議の資料を送付しアンケートにて意見を頂いている。指導監査課、介護保険課、生活支援課に書類等について相談をし、助言を得ながら協力関係を築いている。	生活支援課の職員と深く連携をされていたり、コロナ対応の指導や研修なども市と連携を深められ、協力関係が築けるよう取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を理解し、日々支援の在り方について話し合い、「しないケア」の実践に努めている。	年に1度、身体拘束の研修を行い、職員全員に周知できるように資料なども工夫している。又、月に1度廃止委員会も法人主体で行っている。身体拘束をしないケアに取り組まれ、今後はウェブ研修に参加することも検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所会議や日頃の行動、言動について連絡帳等にて伝達、「不適切なケア」が行われない様常に注意を払い虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事情所会議にて年に一度権利擁護を議題に挙げ学びを深めている。個々に必要性が生じた時制度を活用できるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については十分な時間を取り説明を行っている。改定があればその都度、資料を送付しいつでも説明が出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	折々の挨拶文や電話での状況報告の折、要望や気づきをお聞きし運営に反映させている。	本人の希望を取り入れ、食事のイベントを行う等意見を反映させる取り組みを行っている。また、家族の要望や意見を伺うことができるように、本人の状況や様子などをきめ細かく伝えるなどし、信頼関係の構築に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中で気づきを話し合い運営に反映させている。	月に1度意見交換会を設け、職員全員の意見が反映できる機会をもうけている。また、勤務状況に配慮しながら都度都度話し合いを行い、さらに介護支援の向上を図れるよう職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の会で代表者と話し合い、個々の家庭状況に合わせた就業環境、勤務条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により研修の開催も少なくなっているが、必要に応じて研修に参加しトレーニングできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は入所希望の問い合わせ等で同業者との関りがあるものの、職員に於いてはコロナ禍により交流は出来ていない。わずかに得た情報によりサービスの質を向上していく努力はしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から生活歴、想い、希望や不安等を聴き、話しやすい環境を作り、安心して暮らして頂ける様関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の方針、援助の在り方を十分説明し理解、納得されたうえで契約を行っている。家族の要望や不安を伺い互いに協力し合って本人を支える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所からの資料や、本人、家族の実情や要望を基に必要とする支援を見極め援助に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の人格、意見を尊重し自立意欲を高め互いに助け合える存在であることを意識し暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍による面会制限があり、家族様と直接お会いして会話する機会が少なくなっているが、定期的に電話にて近況報告を行い情報を共有し、家族との絆が途切れないよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外出、面会(直接)が出来ていないが、なじみの方々と電話で話す等で支援に努めている。	コロナ禍のため外出や直接の面会ができないため、ベランダ越しでの面会などを実施している。声を聴けば認識できるように、電話で話せる機会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの関係を把握し、孤立しない様職員が中を取り持ち、より良い関係を築き互いに助け合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時、利用者、家族が安心して暮らしが継続できるよう話し合い、必要に応じて援助をさせて頂く事を説明、他事業所とも連携し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の毎日の活動や会話の中から思いや意向を傾聴、記録に残し本人の立場に立って職員、家族と話し合って本人本位のサービスに繋げている。	入居時に、病院の場合は地域連携室の担当者から、また在宅である場合は担当のケアマネージャーからその方の生活状況や生活歴などを聞き取り、本人を観察し思いをくみとり支援につなげられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にケアマネージャー、家族から生活環境、サービス利用の経緯を聴き本人からも日常の過ごし方を尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共にすることで変化していく心身の状態や過ごし方を観察、記録に残し早期に対応できる様現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきや予測される支援について利用者、家族の要望を伺い、現状に即した支援が行えるように介護計画を作成している。	入居時に本人の様子に合わせた介護計画を作成し、又、本人の状況に応じて介護計画の見直しを行っている。主治医や看護師、家族からも様子を伺い必要に応じ計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に本人の言葉、日々の様子を記録し職員間で情報を共有、工夫しながら実践し経過、結果を話し合い介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のその時々状況、要望に合わせた支援の方法をいくつか考え柔軟な支援につなげるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、医療機関、消防署等の地域資源を把握し、本人が安全に健康的な暮らしが出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に事業所指定の医療機関が主治医となることの了承を得ている。家族、本人の希望する専門医受診には送迎（必要に応じ付き添い）援助を行い、詳細に連携をとり適切な医療が受けられるように努めている。	24時間体制のかかりつけ医に対応できる体制を図っており、看取りの支援体制も整っている。歯科医は往診がなされ、他の専門医は状況に応じ家族や職員で外来受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により24時間相談することが可能。緊急時は訪問看護を受け適切な受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供が出来る様に職員が付添い心身の状態を説明している。認知症高齢者の環境の変化に対応する為、早期に退院できるよう病院関係者とカンファレンスを行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期の援助について説明している。本人に体調不良等変化が見られればすぐに関係者と相談し、希望を聞きながら寄り添い、チームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期に向けた方針の説明を行っている。体調に変化があった場合や今後の方針について判断が必要な時には、改めて家族に説明し、希望を聞きながら寄り添い、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の利用者の状況を把握し、事故や急変に備えて話し合い、マニュアルを作成、初期対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月利用者参加のもと避難訓練を行い、スムーズに初期対応が行えるよう様に努め、食料の備蓄もしている。地域の避難場所になっている。	毎月避難訓練を実施し、夜間や昼間などの想定で水害、火災、地震や停電に備えて実施をしている。天気予報を活用し早い準備で災害に備えている。コロナ以前は地域と一緒に避難訓練をすることもあり協力関係が築けていた。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、個々のプライバシーや誇りを守り、援助に努めている。	一人ひとりの人格やプライバシーを大切に し、言葉遣いに赤ちゃん言葉やちゃん付けな どを使わないように職員間で声かけをしてい る。また、希望に応じて同性介助が出来る ように配慮した取り組みも行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせ自己決 定できるような問いかけを心掛け、日常の 会話の中から思い、希望を傾聴し記録に残 し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣に沿いながら、個々 のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	季節に応じた好みの服装や理美容、化粧 品の使用等本人の希望に合わせ支援して いる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	食べ易く調理し、準備や片付け等が出来る方 には一緒にして頂き、昼食、おやつ作りでは希望 を聞いてメニューを考えている。重度化により食事 介助者が増え一緒に食事をする事は出来ない が当日のメニューについて会話しながら支援して いる。	コロナ以前は外食イベントを盛んに取り組ま れていたが、今はテイクアウトをしたり、食事 作りに参加できるときは、お餅を丸めたり、 巻きずしを巻くなどし、本人の意欲や楽しみ につながる取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	施設の厨房による食事提供で栄養のバラ ンスを取り、食事、水分量は記録に残して いる。重度化に伴い食事量が減少してきた 方には、家族や医療と相談しながら支援し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、個々の能力に応じて声掛け、見守 り、介助を行っている。必要に応じて歯科衛 生士に相談、ケアを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの記録を基にプライバシーを尊重し、不十分な所は手伝い自立支援に努めている。	排泄のパターンを記録し、適切に排泄の誘導や声かけを行うことで、紙パンツから布パンツになった方もおられる。一人一人の排泄の周期をスタッフ間でしっかりと確認することで、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を基に水分食事量等を考慮し、医療とも連携しながら、個々に応じ腹部マッサージ等を取り入れる等予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や気分を考慮し、入浴が苦にならぬよう心掛け、個々に合った方法で安全に入浴が楽しめるよう支援している。	週に2回～3回の入浴の実施をしている。本人の状態が不穏な時や体調、状況に合わせて入浴時間や入浴日を変更するなどの工夫もしている。又、皮膚状況に配慮し、回数を増やすなどの対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣、居室照明の好み、温度調整等個々に合わせて調節することにより、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的を理解し、副作用には十分注意を払っている。主治医の指示の基支援を行い、変化が見られた時には主治医に報告し、指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重症化に伴いその人の出来る範囲の事を役割と捉え、少数の方ではあるが塗り絵、プランターの手入れ等をして気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出はほとんどできていない。入居者の重度化及び精神状態により外出できる方が少ないが、園庭に出て季節を感じてもらおうよう心がけている。	コロナ禍のため、外出支援はほとんど行われなくなってしまったため、少しでも外気に触れることができるように、季節感のある庭園にお散歩としてでかけることなどは日常的に今も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方でお金を管理できる方はおらず、全員家族様の管理となっています。コロナ禍によりお金を使う場面が無い為、支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、何時でも本人が希望すれば使用できるようにしている。手紙については要望があれば支援するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、家具の配置、音響、照明等に注意し季節毎の壁画を入居者と作り、清潔で家庭的な環境作りを心掛けている。	穏やかに過ごせるように、机の配置など本人の好みや精神状態に合わせて工夫されている。また、職員と一緒に立体吸着ウェットシートで掃除をしたり、CDラジカセで好きな音楽を聞いたり、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の日頃の関係を把握し、それぞれが思う場所で過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた品物、食器、リネン等を持参して頂き、心地よく過ごせる様に工夫している。	入居時に、使い慣れた冷蔵庫やテレビ、仏壇など本人が管理できる範囲で持ち込みしている。また、家族写真を飾られたりし居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の理解力等に合わせ、安全に過ごせる環境作りに努め、自立した生活ができるよう工夫している。		